

平成30年度 第3回瑞浪市教育振興基本計画推進委員会議事概要

日時:平成31年2月7日(木) 18:30~19:10

場所:瑞浪市役所4階全員協議会室

出席者:(委員長)厚見正紀 (副委員長)伊藤加代子 (委員)藤井雅明、有賀秀雄、
伊藤竜昭、可知正己 (事務局)(作業部会長)奥村勝彦事務局長、
工藤仁士事務局次長、酒井浩二教育総務課長、大山雅喜社会教育課長、
工藤嘉高スポーツ文化課長、鈴木友恵教育総務課長補佐、
安藤みちる教育総務課主事

1 議事 (進行:委員長)

(1)第2回委員会(11月28日)後の流れ

- ①「後期計画(第2回委員会承認案)」に対する教育委員会(12月4日)からの
意見と対応について ……P1~2
- ②パブリックコメント募集の結果
期間:1月4日~1月31日
ホームページ閲覧件数:57件
お寄せいただいた意見:0件
- ③「後期計画」(最終案) ……別冊

事務局:資料により説明

委員長:事務局からの説明について、質問や意見はあるか。

委員:P55「施策4 体育協会・スポーツ少年団・クラブとの連携」について、教育委員会が考えている取組は、「~との連携」という文言から我々がイメージする内容とは異なっていた。後期計画においてはこのままで問題ないが、5年後に次期計画を策定する際には「~との連携」という表現について工夫をするなど、引継ぎをしておいていただきたい。

事務局:5年後には、適切な表現を検討する。

委員:P2の趣旨には、「新しい教育」の例として、小中学校での道徳や小学校での英語の教科化、ICT教育などが挙げられているが、施策を見る限り、それほど目新しい内容ではないという印象である。新しさの追求という点では、若干寂しいところがある。

事務局:後期計画という性質上、前期計画の内容を継承しており、目玉となる施策には欠けるかもしれない。次期計画策定時に心掛ける。

委員:P24「施策2 確かな学力の育成」の「後期計画策定時の現状・課題」の中で、「さらに大きくなってきています。配置を広げる必要があります。」という文章があるが、つながりが、少々気になる。また、P8の「つきにくく」、「しにくい」の「く」の字が読みにくい印象である。字体のせいかな。取り扱いはお任せする。

委員長：その他、質問等はないか。

（委員からの質問・意見なし）

委員長：瑞浪市教育振興基本計画推進委員会として、本日提案説明を受けた最終案を承認してよろしいか。

委員：異議なし。

委員長：それでは、最終案を承認します。「議題(2)今後のスケジュールについて」を事務局より説明願う。

(2)今後のスケジュール

事務局：資料により説明

委員：計画期間などに「平成」と表記されているが、来年度には元号が変わる。どのような取り扱いか。

事務局：市役所全体の取り扱い方針として、平成30年度中に策定する計画などは、すべて「平成」と西暦を併記することで統一している。「瑞浪市教育振興基本計画 みずなみ教育プラン・後期計画」についても、今年度中に発行するため、「平成」という表記である。了承願う。

委員：ボランティアガイドとして、市内外の人を対象に史跡や文化財の案内をしているが、市内の学生が少ない印象だ。また、新任教員の案内も行っているが、その後、子どもたちに伝えてくれているだろうか。若いうちに文化財などに接すると心に残り、理解が深まる。ぜひ、子ども達にも見学してほしいので、学校で取り組んでいただきたい。

事務局：最後に委員より委員会に参加しての感想などを一言ずつ伺いたい。

委員：日頃は、小中学校のことしか考えないが、プランを見て、幅広く教育を見ることの重要性を感じた。様々な分野から選出された委員の意見を伺ったことで、今後、子どもたちのために役立てることができる。

委員：こういう会議への参加は初めてのことであった。教育全体を捉えて見る良い機会となった。たくさんの施策を具現化するのは、大変なことである。どこにウエイトを置くかが重要であろう。社会教育委員としては、生涯学習という視点から見るとどうなるのかなどを考える良い機会となった。

委員：PTA 代表の委員ではあるが、PTA としても1年目で、役に立つ意見は言えなかったかもしれないが、勉強になった。このようなプランがあることを初めて知った。後期計画を実現することで、将来、子どもたちが「瑞浪市の教育は良かった」「瑞浪市に残りたい」と感じてくれること、また、瑞浪市を支えていく子に育つことを願っている。

委員：かつて教育委員を務めていた時は教育について勉強していたが、退任後は意識や関わりが希薄になっていた。今回、委員となったこと、またスポーツ少年団や

体育協会に関わりを持ったことで、地域と教育委員会の関わりなどを再認識した。子どもたちのために新しいこともどんどん取り入れながら、やっていってほしい。

委員：こういう会への参加は初めての経験であった。現場で活動するものとしては、現場と文章に書かれたものとの差を感じる点もあったが、市民が「瑞浪市に住んで良かった」と考えるような取組を進めてほしい。

平成 15 年に開催された「歴史案内人養成講座」をきっかけに「みずなみかたりべの会」が発足し、今に至っている。この 15 年で会員も高齢化した。生涯学習講座の受講者や史跡や文化財に関心がある人でも、会に入って活動したり、役員を任されるのは困るということで、会員が増えない。会の運営や市の事業への協力が困難となってきている。教育委員会には知恵を貸していただきたい。

委員会に参加し、よい勉強となった。

委員長：教員を退職して 10 年経ち、委員長として十分なことができたか心もとないことである。教員時代には、子どもたちに「夏休みの計画を立てなさい」などと指導していたが、物事は往々にして計画どおりには進まないものだ。このプランについては、ぜひ実現してほしいと願っている。

千葉県の小学 4 年生が両親からの虐待により死亡したことに強い怒りを感じている。瑞浪市からはそのような子を出してほしくない。家庭、地域、学校教育がきちんとしていれば大丈夫だと思う。このプランの実現とその成果を子どもたちの姿、大人たちの姿から実感させていただくことを願っている。

事務局：それぞれの専門分野において委員を委嘱させていただいたが、委員各位には専門分野に留まらず、全般にわたり深く検証していただいた。皆様のご協力により、より完成度の高い計画となった。4 月から計画期間がスタートする。今後は、その実現に力を尽くす。ご協力をありがとうございました。